

## H27 シカ年度隣接地区エゾシカ捕獲結果（林野庁）

### 1. ウトロ地区

#### <概要>

- ・ 囲いワナによる捕獲をウトロキャンプ場、フンベ川（ウトロ下水処理場裏）、弁財崎、三段滝の4箇所を実施。

#### <結果>

##### 1) ウトロキャンプ場 囲いワナ（3年目）

- ・ 捕獲は自動捕獲装置（センサー式）を使用。
- ・ 餌付け誘引は1月6日～3月23日までに37回。
- ・ 囲いワナ稼働期間は2月1日～3月23日の52日間（0.50頭/日）。
- ・ 捕獲数は26頭（オス成獣3頭、メス成獣12頭、0歳11頭）。
- ・ 捕獲回数は7回で1回当たりの捕獲数は1～8頭（平均3.71頭）。

表 1. ウトロキャンプ場囲いワナ捕獲実施工程表

項目	1月			2月			3月			備 考			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
囲いワナ準備	➤									1月6日			
餌付け誘引	—————➤									1月6日～3月23日(78日間)			
捕獲・搬出				—————➤									2月1日～3月23日(52日間)

##### 2) フンベ川 囲いワナ（2年目）

- ・ 捕獲は遠隔操作による捕獲システムから自動捕獲装置（センサー式）に変更。併せて落とし扉も改良。
- ・ 餌付け誘引は、1月12日～3月9日までに26回。
- ・ 囲いワナ稼働期間は、2月16日～3月9日の23日間（0.30頭/日）。
- ・ 捕獲数は7頭（オス成獣3頭、メス成獣3頭、0歳1頭）。
- ・ 捕獲回数は4回で、1回当たりの捕獲数は1～2頭（平均1.75頭）。

表 2. フンベ川囲いワナ捕獲実施工程表

項目	1月			2月			3月			備 考			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬				
囲いワナ改良等			➤							1月27日			
餌付け誘引	—————➤									1月12日～3月9日(58日間)			
捕獲・搬出				—————➤									2月16日～3月9日(23日間)

3) 弁財崎 囲いワナ (1年目)

- ・捕獲は自動捕獲装置 (センサー式) を使用。
- ・餌付け誘引は、1月29日～4月26日までに26回。
- ・囲いワナ稼働期間は、2月7日～4月26日の80日間 (0.64頭/日)。
- ・捕獲数は51頭 (オス成獣0頭、メス成獣29頭、0歳22頭)。
- ・捕獲回数は13回で、1回当たりの捕獲数は1～8頭 (平均3.92頭)。

表3. 弁財崎囲いワナ捕獲実施工程表

項目	1月	2月		3月			4月			備考
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	
囲いワナ新設	→					3月24日より職員実行			1月25日～1月28日	
餌付け誘引		→								1月29日～4月26日(89日間)
捕獲・搬出		→								2月7日～4月26日(80日間)

4) 三段滝 (三者協定) 囲いワナ (3年目)

- ・捕獲は自動捕獲装置 (インターネット回線使用の遠隔操作) を使用。
- ・餌付け誘引は、12月2日～5月2日の153日間。
- ・囲いワナ稼働期間は、12月2日～5月2日の153日間 (0.18頭/日)。
- ・捕獲数は28頭 (オス成獣1頭、メス成獣19頭、0歳8頭)。
- ・捕獲回数は5回で、1回当たりの捕獲数は2～9頭 (平均5.6頭)。

表4. 三段滝囲いワナ捕獲実施工程表

H27シカ年度 実施工程表(三段滝)

項目	12月	1月		3月			4月			5月	備考
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	下旬	上旬	中旬	上旬	
餌付け誘引		→									12月2日～5月2日(153日間)
捕獲・搬出		→									12月2日～5月2日(153日間)

注) 中断期間あり(12月中旬～1月上旬)

<捕獲効率>

- 1) ウトロキャンプ場は、前年度に比べ捕獲数は増加 (17頭⇒26頭) した。  
稼働一日あたりの捕獲数は、0.57頭⇒0.50頭と前年度と大きな差は見られなかった。
- 2) フンベ川は、前年度に比べ捕獲数は減少 (19頭⇒7頭) した。  
稼働一日あたりの捕獲頭数も減少 (0.49頭⇒0.30頭) した。
- 3) 弁財崎は他の囲いワナ捕獲の実績と比較して捕獲効率は高く、稼働一日当たりの捕獲数が (0.64頭) であった。
- 4) 三段滝は、前年度に比べて捕獲数は増加 (7頭⇒28頭) したが、稼働一日当たりの捕獲数は (0.18頭) と低かった。

<まとめ>

1) ウトロ地区の捕獲実績 112頭 目標捕獲数は160頭(未達成)

2) ウトロキャンプ場の捕獲については、前年度に比べ事業期間を確保し、エゾシカを馴化させることができたため捕獲数は増加した。

平成28シカ年度は囲いワナ内への誘因を促すため、ワナの内部が見えるタイプに改修する予定。

3) フンベ川の捕獲については、通年近隣農地周辺において銃による有害駆除が行われていることから、警戒心の高い個体が多いため囲いワナ内への進入を忌避した可能性が考えられる。

平成28シカ年度は囲いワナ内への誘因を促すため、誘因期間を十分に確保しエゾシカを馴化させて実施する予定。誘因状況によっては中止も検討する。

4) 弁財崎の捕獲については、風が吹き付ける箇所春先にエゾシカが集まる場所に設置したことから捕獲頭数は他の囲いワナよりも良好であった。平成28シカ年度は他の囲いワナの過去の実績や傾向を踏まえて、誘因による馴化と捕獲期間の確保に努めて実施する予定。

5) 三段滝の捕獲については、1月中旬から2月中旬の降雪や一般狩猟期間に付近からエゾシカが移動する影響で安定した誘因・捕獲に苦慮しているが、12月上旬～1月上旬と3月中旬～5月上旬の降雪の少ない時期に捕獲している。

平成28シカ年度は捕獲を始めて4年目となり、今後はさらに捕獲効率が低下することが予想されるため、囲いワナの移設を含めて関係者で検討する必要がある。

6) 平成28シカ年度に新設する囲いワナについては、設置スペースの関係で小規模のタイプの導入を検討する。

## 2. 遠音別地区

<概要>

- ・ 囲いワナによる捕獲はオシンコシン崎（オシンコシン崎1・2）の2箇所を実施。
- ・ モバイルカリングによる捕獲は除雪距離を延長して実施。
- ・ 銃猟による捕獲は遠音別川周辺における遠距離射撃と巻き狩りを実施。
- ・ 一般狩猟捕獲支援の林道除雪を実施。

<結果>

1) オシンコシン崎1 囲いワナ（2年目）

- ・ 捕獲は遠隔操作による電動ウインチ式ゲートの捕獲システムから自動捕獲装置（センサー式）に変更。併せて落とし扉も改良。
- ・ 餌付け誘引は、1月7日～4月22日までに37回。
- ・ 囲いワナ稼働期間は、2月5日～4月22日までに37。3月16日～3月23日は、電源バッテリーの電圧低下の都合により14時～1時の11時間のみ稼働(他の日は

24 時間稼働) (0.44 頭/日)。

- ・捕獲数は 34 頭 (オス成獣 8 頭、メス成獣 18 頭、0 歳 8 頭)。
- ・捕獲回数は 7 回で、1 回当たりの捕獲数は 1~9 頭 (平均 4.86 頭)。

表 5. オシンコシン崎 1 囲いワナ捕獲実施工程表

項目	1月			2月			3月			4月			備考
	上旬	中旬	下旬										
囲いワナ改良			→										1月22日~1月28日
餌付け誘引	→											1月7日~4月22日(107日間)	
捕獲・搬出				→									2月5日~4月22日(78日間)

2) オシンコシン崎 2 囲いワナ (1 年目)

- ・捕獲は自動捕獲装置 (センサー式) を使用。
- ・餌付け誘引は、1 月 13 日~3 月 23 日までに 38 回。
- ・囲いワナ稼働期間は、2 月 10 日~3 月 23 日までの 43 日間 (0.81 頭/日)。
- ・捕獲数は 35 頭 (オス成獣 11 頭、メス成獣 11 頭、0 歳 13 頭)。
- ・捕獲回数は 11 回で、1 回当たりの捕獲数は 1~5 頭 (平均 3.18 頭)。

表 6. オシンコシン崎 2 囲いワナ捕獲実施工程表

項目	1月			2月			3月			備考
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
囲いワナ新設			→							1月29日~2月5日
餌付け誘引		→								1月13日~3月23日(71日間)
捕獲・搬出					→					2月10日~3月23日(43日間)

3) オペケブ林道モバイルカリング (2 年目)

- ・実施路線は 3 路線、総延長は約 3.3km。
- ・ルーサンヘイパール (乾草ブロック) による誘引を、2 月 27 日~3 月 13 日までに 12 回実施。餌付けはシカが日中に活動するよう誘導するため午前 7 時から実施し、餌量は当日の日没までに食べきる量を目安とした。林道沿いに広く散布した。
- ・モバイルカリングは、3 月 5 日 (16 時~17 時) と 3 月 13 日 (16 時~17 時 30 分) の 2 回 (運転手 1 名・射手 2 名・記録 1 名の 4 名体制×2 班)。ピックアップトラックの荷台等から発砲。
- ・捕獲数は 0 頭。

4) 一般狩猟支援の除雪

- ・オペケブ林道 3 路線 (延長約 3.5km) について、1 月 12 日から 2 月 13 日までに 4 回実施。

- ・地元猟友会会員による捕獲数は30頭（聞き取り）

表7. オペケプ林道除雪・モバイルカリング実施工程表

項目	1月		2月			3月		備 考
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	
除雪	→		→			→		一般狩猟支援除雪 1月12日～2月13日
餌付け誘引						→		2月27日～3月13日（16日間）
捕獲・搬出						★	★	3月5日、13日（2日間）

5) 遠音別川 巻き狩り（2年目）

- ・餌付け誘引は、3月3日、17日の2回。
- ・捕獲は、国道334号線から約1キロ内陸の南斜面（針広混交林）で3月19日に実施。同日、真鯉地区の金山川において巻き狩りを実施した後に行った。
- ・17名（射手15、補助員2）の体制で実施。
- ・捕獲数は8頭（オス成獣0頭、メス成獣6頭、0歳2頭）。

6) 遠音別川 遠距離射撃（1年目）

- ・生息状況調査を2月23日と26日に実施した。
- ・実施場所は国道334号線から約150m内陸の南斜面。
- ・可猟区であり餌付けによる誘引効果は限定的であると考えられたため、餌付け誘引は、捕獲と平行して試験的に3月3日～3月16日までに4回実施した。
- ・3月6日～3月17日に、捕獲体制を整えた状態で誘引箇所視察を実施し、視察時に捕獲可能な場所にシカを視認した場合は、その場で捕獲作業に移行した。6回の視察のうち、捕獲作業に移行したのは5回、捕獲成功は3回であった。
- ・捕獲数は4頭（オス成獣1頭、メス成獣2頭、0歳1頭）。

表8. 遠音別川巻き狩り・遠距離射撃捕獲実施工程表（青：巻き狩り、黒：遠距離射撃）

項目	2月			3月			備 考
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
生息状況調査		→					2月23日、26日（遠距離射撃）
餌付け誘引				→	→		3月3日～17日（巻き狩り） 3月3日～16日（遠距離射撃）
捕獲・搬出					★	→	3月19日（巻き狩り） 3月6日～3月17日（遠距離射撃）

<捕獲効率>

- 1) オシンコシン崎1については、前年に比べ捕獲数は減少した（41頭⇒34頭）。稼働一日あたりの捕獲数も0.72頭⇒0.44頭と減少した。
- 2) オシンコシン崎2については、稼働一日あたりの捕獲数は0.81頭であった。
- 3) オペケプ林道のモバイルカリングは、前年に比べ捕獲数は減少した（7頭⇒0頭）。

誘因を含め延べ人員 46 人で実施。

- 4) 地元猟友会会員による狩猟頭数(聞き取り)は前年に比べ減少した(54 頭⇒30 頭)。
- 5) 遠音別川の巻き狩りについては、捕獲数は 8 頭で誘因を含めて延べ 8.5 人(1 人当たり 0.9 頭)。
- 6) 遠音別川の遠距離射撃については、捕獲数は 4 頭で誘因を含め延べ 51 人(1 人当たり 0.08 頭)。捕獲作業実施回数に対する捕獲成功回数は 60%であった。

<まとめ>

- 1) 遠音別地区の捕獲実績 81 頭 目標捕獲数は 130 頭(未達成)
- 2) ワナの設置場所は国道と可猟区(民有地)に挟まれた細長い形の保護区内のため、適地が限られており、誘引に時間をかけて十分馴化させることが必要である。  
平成 28 シカ年度は安定した電源を確保し捕獲を実施する予定。併せて低コストの電源による捕獲の試行を行う。
- 3) 銃猟による捕獲については、引き続きモバイルカリング・遠距離射撃・巻き狩りなど複数の手法を継続しながら生息密度の低下を図る。  
また、低下した密度を維持する手法としても有効であると考えため、それぞれの実施体制の規模(人員数や実施回数)、誘因の工夫、狙撃箇所の確保と除雪方法等を検証し捕獲手法として定型化の検討が必要である。
- 4) モバイルカリングについては、オペケプ林道の一般狩猟支援の除雪が狩猟者に浸透し入林者が増えたことから、エゾシカの車両や人間に対する警戒心の高い状況が 3 月以降も継続されており、現状での捕獲効率は低いと考える。  
平成 28 シカ年度は林道の開設に伴う今後の路線の延長を視野に、線形(カーブ)に合わせた餌付け場所と射撃場所を確保し実施する予定。
- 5) 巻き狩りについては、平成 26 シカ年度の実施結果を踏まえて複数の候補地を選定し、実施時期のシカの生息状況に合わせて場所を選択して実施した。また、金山川周辺では搬出を円滑にするためスノーモビルを使用した。  
平成 28 シカ年度も引き続き実施する予定。
- 6) 遠距離射撃については今年度初めて遠音別川周辺で実施したが、今後の改善と検証により少数(1~2 頭)捕獲を継続する手法として確立する必要がある。  
平成 28 シカ年度はオペケプ川右岸の地域も含めて実施する予定。

### 3. 真鯉地区

<概要>

- ・ 囲いワナによる捕獲を実施。
- ・ 箱ワナによる捕獲を実施。
- ・ 銃による巻き狩りによる捕獲を実施。

<結果>

1) 金山川 箱ワナ (2年目)

- ・折りたたみ方式のワイヤーメッシュ(径φ5mm・編目100mm角)製の箱ワナ(W0.9×L1.8×H1.5m)を420mの区間に3基設置し、ワナ内の釣り糸(ナイロンからPEラインに変更)に触れると捕獲扉が落ちる方式で捕獲を実施。
- ・餌付け誘引は2月3日～3月25日までに20回。
- ・箱ワナ稼働期間は、3月3日～3月25日までの23日間(0.52頭/日)。
- ・捕獲数は12頭(オス成獣2頭、メス成獣5頭、0歳5頭)
- ・捕獲回数は8回。1回当たりの捕獲数は1~3頭(平均1.50頭)。

2) 金山川 巻き狩り (2年目)

- ・餌付け誘引は、3月3日、17日の2回。
- ・国道334号線から200~700mほど内陸に入った針広混交林にて3月19日に実施。金山川及び隣接するオシャマップ川の両河川沿いに射手を配置し、勢子が稜線沿いからシカを沢に向かって追いだす形で実施。
- ・17名(射手15、補助員2)の体制で実施。
- ・捕獲数は7頭(オス成獣0頭、メス成獣4頭、0歳3頭)。

表9. 金山川箱ワナ・巻き狩り実施工程表(青:巻き狩り 黒:箱ワナ)

H27シカ年度 実施工程表(金山川)

項目	2月			3月			備考
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
餌付け誘引	—————→			—————→			2月3日～3月25日(箱ワナ) 3月3日～3月17日(巻き狩り)
捕獲・搬出				—————→			3月3日～3月25日(箱ワナ) 3月19日(巻き狩り)

<捕獲効率>

- 1) 箱ワナについては、前年に比べ捕獲数は増加した(2頭⇒11頭)。ワナ稼働一日あたりの捕獲数も0.17頭⇒0.52頭と増加した(一台あたりでは0.06頭⇒0.17頭)。
- 2) 巻き狩りの動員射手数あたり捕獲数を算出すると、1人あたり1.8頭⇒0.41頭と減少した。

<まとめ>

1) 真鯉地区の捕獲実績 19頭 目標捕獲数は50頭(未達成)

箱ワナについては、昨年度と違い雪溶けが早かったことから、エゾシカの移動時期と捕獲期間とが重なったことが考えられる。

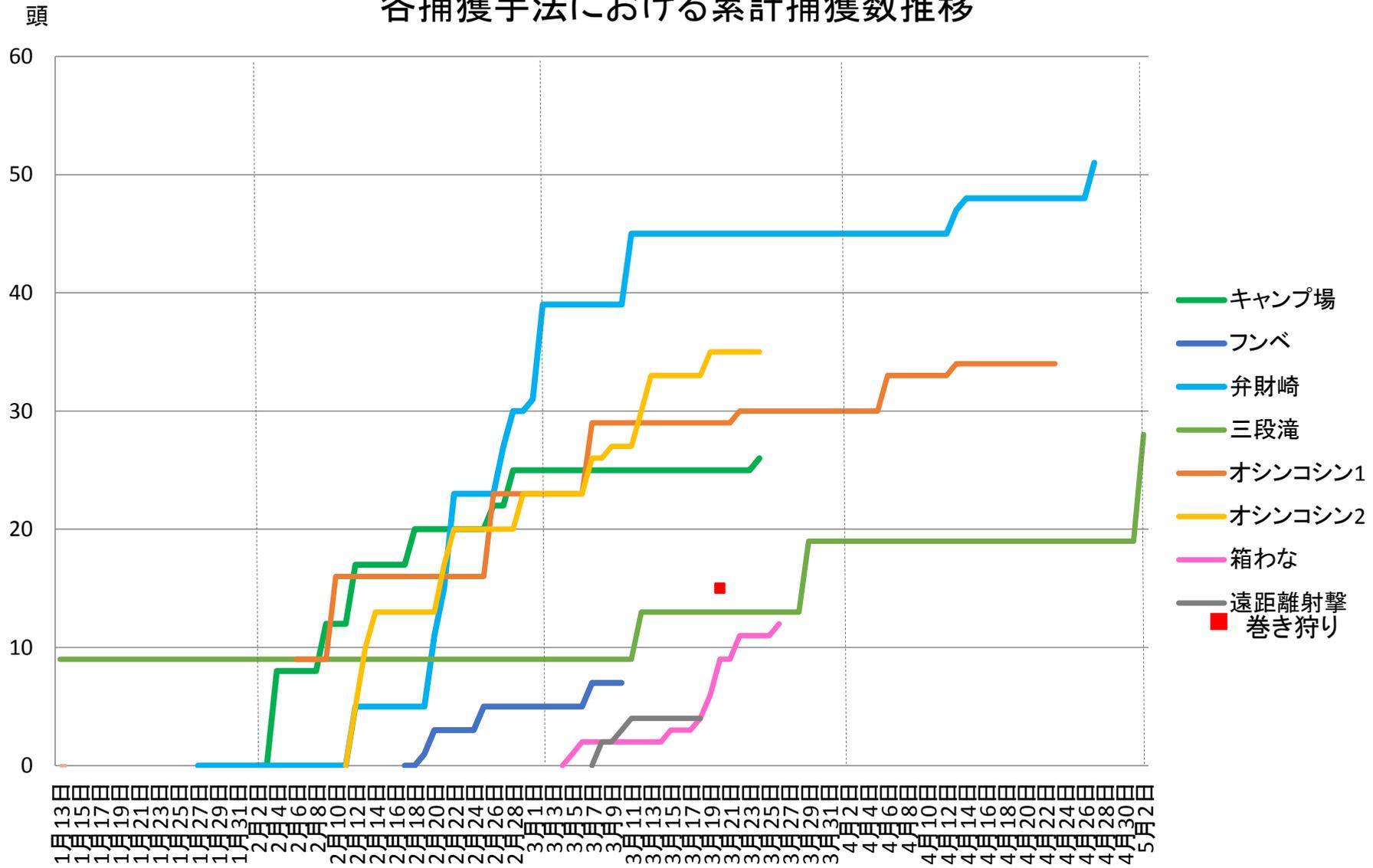
また、釣り糸を変更し風で捕獲扉が落ちないように改良したことや餌の誘因効果を継続されたことで捕獲効率が上がった。

なお、ワナ自体を警戒することもなく、ワナの傍らで餌を食べる状況も確認されており、一箇所に複数を設置しても捕獲が可能と考える。平成28シカ年度は箱ワナを増設し捕獲する予定。

- 2) 巻き狩りについては、平成26シカ年度の実施結果を踏まえて複数の候補地を選定し、実施時期のシカの生息状況に合わせて場所を選択して実施した。

また、金山川周辺では車両の待機スペースの除雪と搬出を円滑にするためにスノーモバイルを使用した。平成28シカ年度も実施する予定。

### 各捕獲手法における累計捕獲数推移



知床世界遺産隣接地域での  
エゾシカ捕獲実施箇所及び検討箇所  
(平成28～29シカ年度)

平成28年6月28日  
知床森林生態系保全センター

● 罠いワナ等  
捕獲検討実施箇所

● モバイルカリング等  
銃猟捕獲実施箇所

● 一般狩猟支援(除雪)  
実施箇所

遺産隣接地域

世界遺産地域



ウトロキャンプ場

ウトロ東

ウトロ支所裏

フンベ川

三者協定

H27新規事業

三段滝

弁財崎

オシンコシン崎1

オシンコシン崎2

S07  
ウトロ

H27新規事業

遠音別(遠距離射撃)

オペケブ(除雪)

H27新規事業

オペケブ(モバイルカリング)

マコイ左岸

S10  
真鯉

遠音別(巻き狩り)

H27新規事業

金山川(箱ワナ3基)

S08  
遠音別

金山川(巻き狩り)

斜里町

2 km  
2 マイル  
オホーツク海  
Oxotckoe  
MODE